

大宮人の吉野宮で、万葉びとはどのように過ごしたのでしょうか？

—「万葉集」や『鵜風集』から妄想する吉野宮での過ごし方—

【気分爽快！自然を満喫】

①船によって競争？

百磯城の大宮人は 船並めて朝川渡り
船競い夕川渡る…(巻1・36)

②狩りをする

あしひきの 山にも野にも 御狩人
得物矢手挟み 散動きたり見ゆ(巻6・927)

③周辺を探検・散策する

大瀧を 過ぎて夏身に 近づきて
清き川瀬を 見るが清けき(巻9・1737)

【他にもいろいろ】

④天皇をたたえる

やすみしし わご大君 神ながら 神さびせす
と吉野川 激つ河内に 高殿を…(巻1・38)

⑤やっぴりお酒？宴会をする

琴を奏しみ酒を交わす宴は終わりそうになく、
月が吉野の川岸を照らしている。(懐風藻)

【万葉人だって恋したい！恋バナ】

④独身を悲しむ

宇治間山 朝風寒し 旅にして 衣貸す
べき 妹もあらずに(巻1・75)

⑤愛しいあの娘を思う

弓削皇子、紀皇女を徳ふ御歌
吉野川 遙く瀬の早み…(巻2・119)

⑥伝説の仙女で恋バナ

古に 葉打つ人の 無かりせば
ここもあらずし 柘の枝はも(巻3・387)



宮滝付近の川辺での宴の様子 (イメージ)



宮滝付近から北東を望む(鳥瞰図)

宮滝は奈良盆地の南側にあり、
紀伊山地北麓部に位置します。



【宮滝へのアクセス】

●電車の場合：

大阪・京都・名古屋方面からは近鉄・橿原神宮前駅
経由で、和歌山方面からはJR吉野口駅経由で大和
上市駅へおこしてください。下車後、バス等で約15分。

●お車の場合：

京都・大阪方面からは国道169号線を、和歌山・名
古屋方面からは国道370号線をご利用ください。



国史跡 宮滝遺跡

遺跡紹介リーフレット



本リーフレットに掲載している写真・図版は、全て吉野町所蔵です。
(復元作画：早川和子氏 航空写真撮影：株式会社アクセス 遺物等撮影：PluWan)

宮滝遺跡は—

宮滝遺跡は吉野町大宮滝の集落の地下にある、
約11万㎡の広さの遺跡です。昭和5～13年に実施
された第1次調査以来、2023年時点で70次に及ぶ
調査が行われています。調査の結果、宮滝では縄
文～江戸時代にかけて、断続的に人々の営みがあ
ったことがわかっています。昭和32年には、宮跡の
「等々の基址をみだし、」様々な時代の遺物を包含
する山地の遺跡」と評価されたことで、遺跡の一部(約
2.2万㎡)が国史跡に指定されました。

宮滝遺跡で特に注目されるのは、飛鳥～奈良時
代にかけての遺構です。建物跡などが検出されて
いるのですが、どうやら飛鳥時代に大きな苑池を
伴う建物群が整備されたようです。その後、この
施設は奈良時代前半頃に、より大規模に再整備さ
れました。この施設は壬申の乱や『万葉集』で知



宮滝遺跡の位置

られる離宮・吉野宮の跡と考えられています。
また、宮滝遺跡は縄文時代の遺跡としても著名
です。昭和の研究に大きく貢献した宮滝式等の土
器・石器は、今、奈良県指定文化財となっています。

発掘調査でわかってきた、各時代の宮滝の様子

縄文時代

・早期の土器が出土。宮滝で人々の営みははじまったか。

・宮滝式などが使われた後期～晩期の土器がおおく出土。

弥生時代

・前期～中期に集落(竪穴建物や方形周溝墓など)が営まれる。

・宮滝の中央部に、苑池をとまなう建物群が整備される。

飛鳥時代

・苑池状の池よりも西側で、大型建物を中心に整然と並ぶ

建物群が整備される。石敷きなどを伴う大規模なもの。

奈良時代

・礎石建物一棟などが確認されている。

平安時代

・この頃使われた土器(瓦器碗等)が出土している。

鎌倉時代

・まじいりが書かれた土器が確認されている。

江戸時代？

・まじいりが書かれた土器が確認されている。



宮滝遺跡の調査の様子



編集・発行：吉野町 お問い合わせ先：吉野町役場 産業観光課

〒639-3192 奈良県吉野郡吉野町上市80-1 電話：0746-32-3081

Fax：0746-32-8855 mail：bunkaza@town.yoshino.lg.jp

※吉野歴史資料館のHPでも宮滝遺跡の情報発信を行っています。※QRコード→

→資料館HP) http://www.town.yoshino.nara.jp/about/shisetsu/dentoou/rekishihi/ryokan.html

宮滝の集落の地下は、ほぼ全域が遺跡になっています。各所でどのような発見があったのか、ご紹介します。

大型建物を検出

宮滝遺跡の第41次調査と第69次調査で、東西9間(23.7m)・南北5間(9.6m)の大型建物(掘立柱建物)を検出しました。四面に土間をもつ立派な建物で、屋根の一部には瓦が葺かれていた可能性があります。奈良時代頃の宮滝遺跡の中心施設とみられます。



右) 大型建物の確認状況

大型建物は一体何の建物?

大型建物周辺の様子(奈良時代頃)を復元しました。建物の大きさ・規模ともに、とても立派なものです。これらの建物には「平城宮内裏の瓦」と似た文様の瓦が使われています。こうした情報をもふまれば、聖武天皇の



上) 大型建物等の復元イラスト



右) 出土土器

弥生時代の集落跡と土器の棺

宮滝遺跡では、縄文時代に続いて弥生時代にも人が住んでいたようです。今の宮滝の中央部やや東側で建物の跡が、中央部やや西側～北西部でお墓の跡が見つかっていました。第1次調査では、子供用?とみられる土器の棺も見つかっています。この土器棺は近畿初の発見でした。



右) 宮滝出土の土器棺

飛鳥時代の池状遺構

第43次・第44次調査で飛鳥時代の池状遺構が確認されました。その形や深さから、お庭の池(苑池)のようなものとみられます。周辺ではピッタリと向きが合った建物が数棟が確認されており、これらは飛鳥時代・斉明天皇の吉野宮にあたるかと考えられています。



右) 吉野宮(向鳥時代)復元模型

宮滝式という名前の土器

宮滝遺跡の第11次調査では、後に宮滝式と名付けられる縄文土器が出土しました。土器の側面に、扇形の文様がつく土器です。この「宮滝で初めて見つかったデザインの土器」は、今日、近畿の縄文時代後期を代表する土器であることが分かっています。



右) 宮滝式と縄文方法

宮滝にはいつから人がいたのか

およそ1万年続く縄文時代のうち、一体いつ頃から宮滝に人が住んでいたのでしょうか。第58次調査で縄文時代早期(縄文時代がはじまった頃)の土器がみつかり、この頃から人びとの営みがあったことが分かりました。山と川に囲まれた宮滝は、縄文時代の人びとが通うしやすき場所だったことでもう。



右) 縄文時代の製粉具(石臼・磨石)

『日本書紀』『続日本紀』にみる吉野宮の主な記述

西暦	できごと
656年	斉明天皇、吉野宮をつくる。
659年	斉明天皇、吉野宮行幸。
671年	大海人皇子、大津宮を逃れ、吉野宮に入る。
672年	大海人皇子、吉野で挙兵(壬申の乱)、宇陀「三重を経て不敵へ向かう」。
679年	天武天皇、皇后や6人の皇子たちと吉野で盟約。
689～697年	この間、持統天皇が吉野宮行幸を31回行う。
701年	文武天皇、吉野離宮行幸。持統太上天皇、吉野離宮行幸。
702年	文武天皇、吉野離宮行幸。
723年	元正天皇、芳野宮行幸。
724年	聖武天皇、芳野宮行幸。
736年	聖武天皇、芳野離宮行幸。

奈良時代以降の宮滝に関する主なできごと

西暦など	できごと
893年	宇多天皇、菅原道真らと宮滝行幸。
1185年	源義経都落ち。宮滝周辺に伝説が残る。『源平盛衰記』等に壬申の乱の活躍、この頃、吉野宮は吉野山とされたか。
1322年	義隆親王、吉野山で討幕のため挙兵、『太平記』に宮滝付近の記述が載る。
1336年	吉野山に南朝が開かれる。『吉野拾遺』に南朝関係の宮滝周辺の物語が載る。
時期不明	龍の「二人静」や「国頼」など、壬申の乱を扱う芸能が成立。
江戸時代中期～後期	賀茂真淵・上田秋成ら、吉野宮跡は宮滝と提唱。本居宣長、宮滝で宮跡の伝承を記録する。『大和志』で宮滝が宮跡候補地の一つと紹介される。
明治年間	『大日本地名辞書』、吉野宮跡を宮滝に想定。木村一郎、宮滝で遺物を採取。

大正以降の宮滝遺跡・吉野宮にまつわる研究史

西暦など	できごと
1927年	折口信夫・澤瀨久寿ら、吉野宮を宮滝に想定。山本源次郎、宮滝遺跡顕彰。
1929年	中岡清一と森口奈良吉を中心に、吉野宮の位置をめぐる論争が起こる。
1929年	巖枝節・岸熊吉、宮滝を予備調査。
1930年	末永雅雄、宮滝遺跡第1次調査着手。
1944年	『宮滝の遺跡』が刊行される。
1954年	堀池春峰、吉野宮は比叡寺跡と主張。
1957年	宮滝遺跡の一部が国史跡となる。
1965年	折口信夫、吉野宮は大滝周辺と主張。
1975年	前園史知雄、宮滝遺跡第2次調査。
1977年	菅谷文雄ら、壬申の乱の遺物を踏査。
1980年頃～	末永雅雄、宮滝が吉野宮跡と主張。
1990年	宮滝遺跡で飛鳥時代の池状遺構検出。
1996年	福原考古学研究所、『宮滝遺跡 遺構編』発行。
2000年	縄文時代早期の土器が出土。
2016年	吉野町、宮滝遺跡で大型建物を検出。



宮滝遺跡 各時代の遺構(黄:弥生 青:飛鳥 桃:～奈良) ※福原考古学研究所1996『宮滝遺跡遺構編』を基に作成